

千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第39週 (9/25-10/1) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		39週	38週	37週	36週
小児科		18	18	16	18
眼科		5	5	4	5
インフルエンザ*		28	28	25	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市				千葉県	
		注意報	9/25-10/1	9/18-9/24	9/11-9/17	9/4-9/10	
			39週	38週	37週	36週	38週
小児科	RSウイルス感染症		18	20	31	32	208
	咽頭結膜熱	○	7	3	5	13	32
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	29	16	33	27	222
	感染性胃腸炎		42	45	51	65	287
	水痘		6	2	2	2	20
	手足口病	↓★	66	81	100	101	586
	伝染性紅斑		3	0	0	5	3
	突発性発しん		13	2	8	10	43
	百日咳		0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ		13	21	30	36	143
	流行性耳下腺炎		5	5	5	4	30
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		4	3	9	6	42
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		3	0	2	5	19
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		1	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(3件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査	結核	男性	80歳代	画像診断等
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	-	-	-	-

・第39週は、結核3件(169)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第39週のコメント

<咽頭結膜熱> 前週より増加し0.39となった。過去10年の同時期と比べると最多。

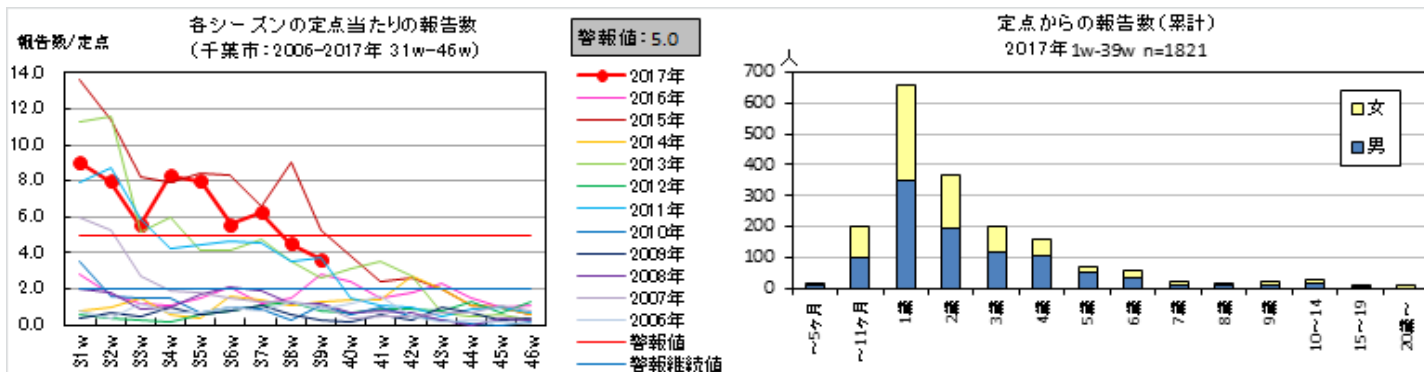
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し、1.61となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<手足口病> 前週より減少し3.67となったが、流行発生警報終息基準値は上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

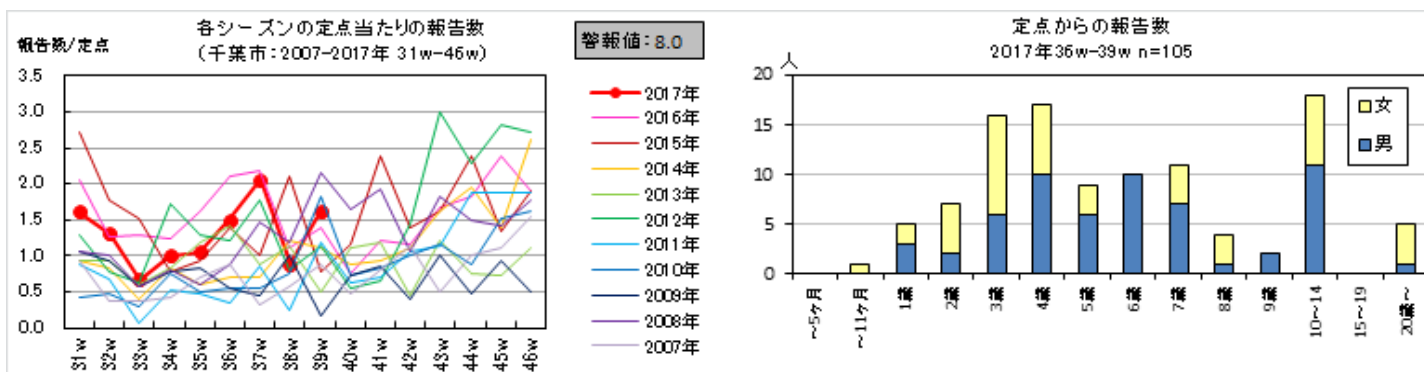
<手足口病>

全国レベルの第38週は、流行発生警報終息基準値(2.0/定点)を上回ったままで過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では茨城県、福岡県、宮城県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の2017年第39週は前週より減少し3.67となりましたが、流行発生警報終息基準値は上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(5.67/定点)で流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回り最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。他に若葉区で流行発生警報開始基準値を、中央区及び緑区で流行発生警報終息基準値を上回っています。2017年第1週から第39週までの累積報告数(n=1821)によると、性別では男性が54.8%(997名)、女性が45.2%(824名)で、年齢階級別では1歳(36.1%:658名)、2歳(20.0%:364名)、3歳(11.0%:161名)の順に多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第38週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鳥取県、福岡県、山形県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2017年第39週は前週より増加し1.61となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。例年の発生動向によりますと、今後増加する傾向があります。区別の発生状況は、緑区(3.25/定点)で最多で、同区の2歳、7歳及び10歳代前半で多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から第39週の報告数(n=105)によると、性別では男性が56.2%(59名)、女性が43.8%(46名)で、年齢階級別では10歳代前半(17.1%:18名)、4歳(16.2%:19名)、3歳(15.2%:16名)の順に多くなっています。



<咽頭結膜熱>

全国レベルの第38週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では宮城県、鹿児島県、鳥取県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の2017年第39週は前週より増加し0.39となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、若葉区(2.0/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第39週までの累積報告数(n=205)によると、性別では男性が62.0%(127名)、女性が38.0%(78名)で、年齢階級別では1歳(26.8%:55名)、3歳(15.6%:32名)、5歳(13.7%:28名)の順に多くなっています。

